

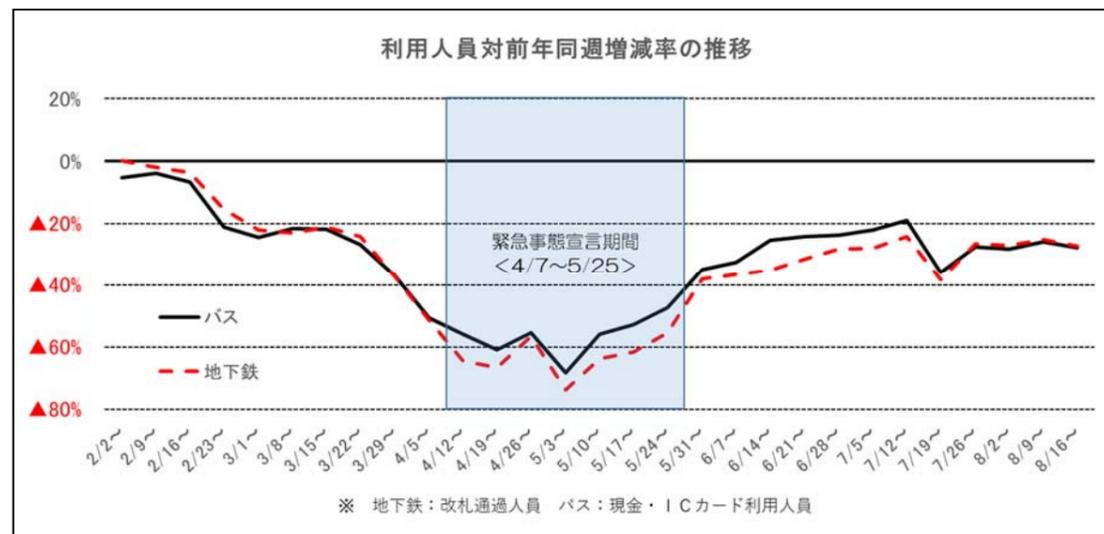
## 新型コロナウイルス感染症による市営バスへの影響等について

## I 新型コロナウイルスのバス事業への影響

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って、2月から徐々に市営バスをご利用のお客様が減少し、4月から5月の緊急事態宣言発令期間中は、対前年同週比で60%を超えて落ち込むなど、大きな影響が発生しました。

緊急事態宣言が解除された5月下旬から6月にかけては、お客様の一定の回復はありましたが、感染の再拡大の影響もあり、7月以降、バスをご利用されるお客様は、昨年と比べ約2割～3割の減少で推移しています。

乗車料収入の減収額は、6月までの第一四半期で14億9千8百万円(29.6%減)となっています。



## II これまでの取組と今後の対応

## 1 路線バス

## (1) 運行状況

緊急事態宣言発令期間中の4月27日(月)から5月10日(日)までの間の平日に減便運行しましたが、それ以外については、原則として平常ダイヤでの運行を継続しています。ただし、23時30分以降発の深夜バスについては、現在も全便運休しています。また、あかいくつ、ピアラインについては、施設の営業状況やお客様の動向を踏まえ、一部を減便したダイヤで運行しています。

## (2) 夏季ダイヤの実施

例年、お盆期間を中心とする夏季期間について、学校や企業の夏休み等でお客様のご利用が減少するにあわせて特別ダイヤで運行していますが、今年は8月3日(月)から8月31日(月)まで、新型コロナウイルス感染症の影響も踏まえて実施しました。

【夏季期間中5,454便の削減(1日あたり平均▲2.6%、最大▲6.5%)】

また、横浜駅前～本牧車庫前間を運行する105系統について、期間中、多くのバスが並走する横浜駅前～地下鉄関内駅間を短絡するなど、輸送力を確保しつつ、運行便数の適正化を図る取組を試行的に実施しました。

## (3) 時差通学に応じた臨時便の運行(4月～8月)

市営バス沿線の高等学校等が、コロナウイルス感染防止対策による時差通学を実施することにより、混雑する時間帯の拡大が予想された路線については、臨時便を運行しています。

【臨時便の運行便数(9路線：延べ583便)】

## 2 ベイサイドブルーの運行開始

ベイサイドブルーは7月23日(木・祝)から営業運行しています。

沿線施設等へ的人出が回復していない状況はあるものの、1日あたり平均680名の方にご利用いただいています。

## &lt;ベイサイドブルー利用実績&gt;

	1日あたり	1便あたり
平日	452名	15名
土休日	967名	27名
合計	680名	20名

## 3 貸切バス

貸切バスについても、客船の寄港がストップしていることや、学校行事が中止されていることの影響により、前年同期比で約1億円(70.0%)の減となっています。

## &lt;貸切バス収入(4～6月)&gt; (金額単位：千円)

	2年度	元年度	増減	増減比
一般貸切	6,597	74,629	▲68,032	▲91.2%
企業貸切	36,107	67,672	▲31,565	▲46.6%
合計	42,704	142,301	▲99,597	▲70.0%

## 4 今後の対応

新型コロナウイルス感染症による影響は、今後も当分の間続くものと想定されます。また、この間定着しつつあるリモートワークなど「新しい生活様式」により、中長期的にもお客様の減少や利用時間の変化は避けられないものと考えられます。

市営バスとしては、そのような状況の中でも市民の足として交通ネットワークを維持できるよう取り組みます。

## ① 経費の見直し

動力費や光熱水費などの徹底的な節減とともに、施設・設備などへの投資についても見直します。

## ② 路線・ダイヤの見直し

最寄りの駅までの交通手段として、ご利用状況の変化に応じた便数の増減や運行区間の見直しを行います。

## ③ バス事業者間の連携

同一路線や近隣路線を複数の事業者が運行している地域について、輸送力の適正化を図ります。

## ④ 貸切事業

企業輸送に引き続き取り組むほか、学校行事の再開や、GoToキャンペーンなどを活用した市内観光の充実による受注獲得を目指します。